

RESEARCH MANTAS IN PALAU

パラオマンタリサーチ!

序章

最近、モルジブのバア環礁でマンタ100匹の群れが超話題になっている。
実はパラオのある場所でも、100匹ほどでは無いがその場所を埋め尽くすくらいの
マンタが見られるという情報が以前からしばしば伝えられていた。

50匹のマンタが群れて捕食を行なうその現場を押えるべく、
急遽、デイドリームパラオとともに、リサーチを開始した。さて、その結果やいかに!

PHOTO&TEXT TAKAJI OCHI SPECIAL THANKS DAY DREAM PALAU DESIGN SANA☆



取材予定変更!

それは、急なロケスケジュール変更の知らせだった。当初パラオの南にあるソンソロールへのロケの予定が、乗船するはずだったクルーズ船、龍馬が故障して取材中止。僕はその時点で今回のロケは無くなるものと思っていた。

それが、ソンソロールの代わりにコロールに滞在して、ある物を狙ってのリサーチダイビングのロケを行って欲しいという依頼を改めて受けたのは、出発の数日前の事だった。

デイドリームパラオ、ペリリューステーションでのWEB-LUEロケは、過去に何回も経験していたから、パラオという海でリサーチダイビングに、満月であるか新月であるかなどの潮汐の関係がいかに重要であるかは理解していた。それにシーズンも大きく左右する。

今 回のリサーチでテーマにしている狙いが、はたして取材期間中に撮影可能なかどうか、潮汐表を見ながら、自分は少しその事が気になっていた。

特にデイドリームがWEB-LUEでの取材を依頼して来る場合、ほとんどのダイバーが知っているから、定番のブルーコーナーは取材しなくても良いというスタンス。だから、パラオには近年、相当数足を運んでいながら、ブルーコーナーでのダイビング本数は異常な程に少ない(本当はたまには潜ってみたいんだけど)。

以前、ダイビング雑誌でパラオ取材に訪れていた頃は、「ジャーマンでマンタを撮影して、ブルーコーナーさえ潜れば、取材は終わったも同然」くらいに、取材する側、取材される側からしても、ある意味とても楽な海だったわけだ。

しかし、今回は、現地ガイドが思案して取材スケジュールを決めたわけではなく、言うなれば代替えの取材。果たして、そのような条件で、望んでいたものが撮影できるのか。

取 材の担当してくれたのは、数年間、デイドリームペリリューステーションでメインガイドを務めてきた、遠藤さん。何度も訪れたペリリューステーションで、お互いに信頼し合いながら、取材を続けてきた仲だ。2010年にペリリューステーションからコロールに戻り、今はマネージャーとしてコロールを取り仕切っている。

パラオに到着早々、その遠藤さんに「ブルーコーナーはどうする?」と尋ねると、「いや、「今回も」、潜るのやめましょう」との返事。「ブルーコーナー」を潜らない事で、取材に緊張感を与える。自分に気合いを入れる。そんな意味合いも含まれていたのかもしれない。



01



02



03

01/単体で無く、群れを狙ってのリサーチ開始!

02/パラオノースサイドのサンゴは健全

03/新艇でリサーチへ向かう



滞在中の10日間、
コンディションは
最高だった

RESEARCH MANTAS IN PALAU パラオマンタリサーチ! 序章 WEB-LUE 2011. Autumn [Palau]

Information Link
<http://daydream.to/palau/>

←click! 関連情報HPへ



外洋で二度も遭遇した
300頭ものカズハゴンドウの群れ

「狙いは北です。北のマントラの群れ。多いときは50匹くらいを目撃例もあります。でも、正直時期が悪いんですね。本当は3月とか4月の方が確率が高い」そう話していたのは10月後半の事。

その日から、僕は潮の状況を頼りに、北でのリサーチを続けた。しかし、マントラの「群れ」どころか、マンタ1匹遭遇することも無く、1日、1日と時間は過ぎていった。(やはり3、4月の方が良かったのかもしれない) そう思うが、潜っている間中、何度も頭をよぎった。

ほとんど、同じポイントで潜り続けると言っても、もちろん潮の状況を考えてエントリーするので、その一番良いタイミングになるまでは、別のポイントに潜り時間調整をした。北への移動途中、2日間ほど、300匹はいるだろうカズハゴンドウの群れに遭遇してスキダイビングで撮影したり、何故か、マンタとオルネートイーグルレイを除くパラオで

見られるかなりの種類のエイを撮影したり、予想外の場所でシルバーチップシャークやブルシャークに遭遇したこともあった。一見大物運に恵まれているようでも、狙いのものがみつからなければ、正直あまり嬉しくは無い。

しかし、考えようによっては、自分が撮影に訪れる時には、現地のガイドが相当にリサーチデータを蓄積して、ある程度メドが立った後の事。そういう意味では、今回はそのデータ蓄積の途中段階に訪れたと考えるべきで、より確実性を増すためには必要な事だ。つまり、「会えない事もデータの蓄積である」ということ。失敗を繰り返しながら、新たなポイント開拓はより確実なものとして、完成されているということだ。

出ない事も一つのデータの蓄積



003というマンタ狙いのポイントでも、シルバーチップを目撃



01/ 海の様子を伺う遠藤さん

02/ マダラエイ



03

RESEARCH MANTAS IN PALAU パラオマンタリサーチ! 序章

WEB-LUE 2011. Autumn [Palau]

Information Link
<http://daydream.to/palau/>

←click! 関連情報HPへ



01

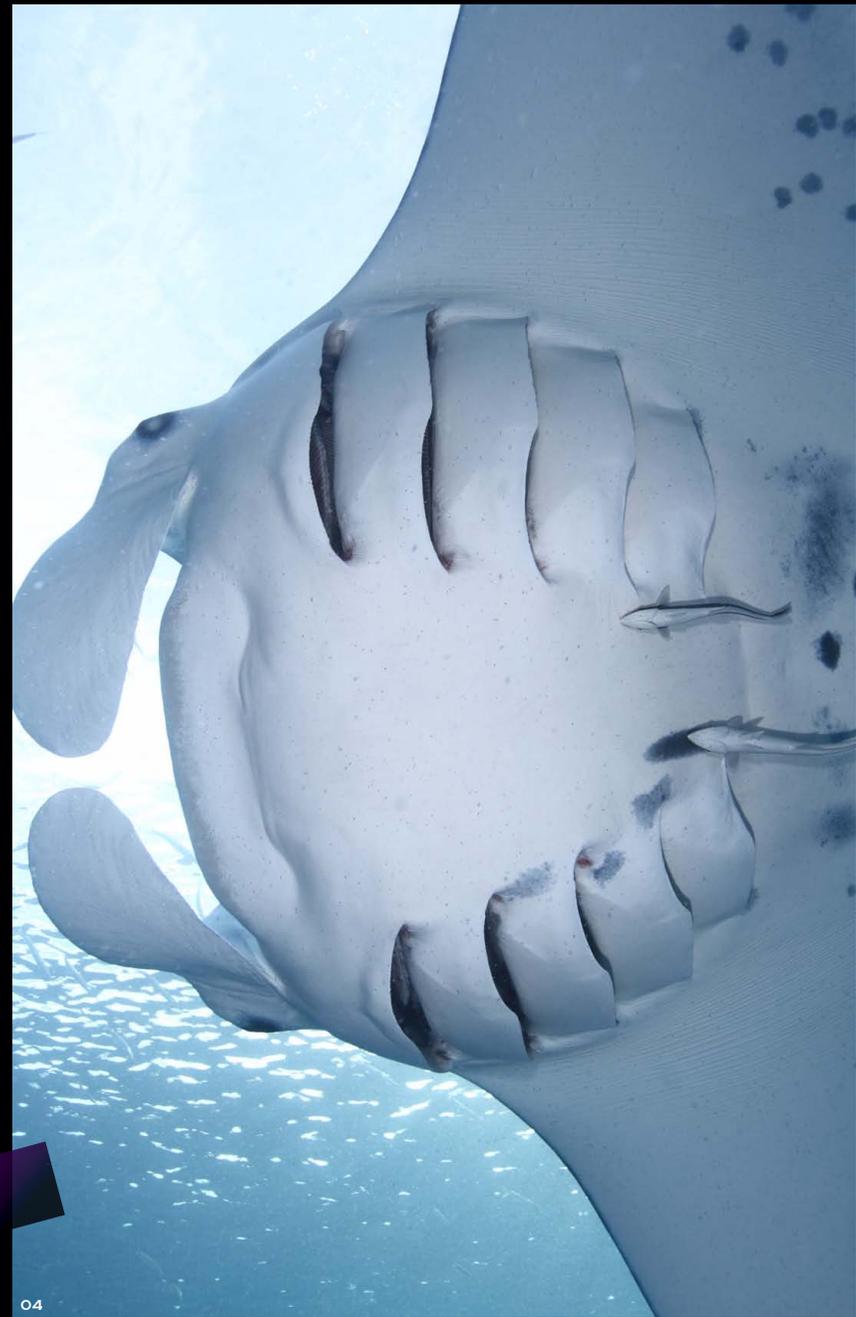


02



03

01/ 隊列を組んで、捕食に向かうマンタ
02/ 船上からでも見える浅瀬を泳ぐマンタの影
03/ マダラタルミの群れの周囲を旋回するマンタ
04/ ダイバーの存在を無視するかのように旋回を続けた



04

なかなか北での成果が得られないある日、「今日は午後からジャーマンチャンネルに行きましょう」と遠藤さんが口にした。今回のリサーチダイブには、実は2名のゲストが飛び入り参加していた。諦めたわけではないが、何も出ないポイントを延々繰り返し潜るわけにもいかないと考えてのことだろう。このままでは記事的にも絵がまったくなくて、ストーリーを作れるのが気になってきたところでもあった。弱気になり、「ブルーコーナー潜っとく?」と聞いてしまった事もあった。正直、当たりが無い日が続く、写真がまったく撮れないで潜り続けることによる精神的疲労の蓄積具合も相当なものだった。

→ の日は、ある程度押えられるものを押え
→ する。そんな感じで東のマンタポイント、スタジアム（デイドリームが使用するオリジナルポイント）や、浅瀬に群生するサンゴの美しいポイントでの素潜り撮影などを行い、午後上

げ潮の頃合いを見てジャーマンチャンネルに移動した。

一時、このジャーマンチャンネルでのマンタウォッチングのルールが厳しくなっていて、中層に出てマンタを探す事もできない状態だったので「撮影には向かない」と諦めていたのだけど、最近は少し規制が弛み、中層に出ることがまたOKになったと聞かされた。

1本目、上げ始めの時間で、他のサービスも多くエントリーしていた。最後の最後になって1匹のマンタが中層を外に向かって移動していくのに遭遇し、とりあえず、マンタの写真を撮影できた。

他のサービスがほとんど引き上げてしまった2本目。水面付近には、クマザサハナムロ、マダラタルミ、ミナミイズミが密集して捕食を繰り返していた。この激しい捕食シーンだけでも物凄い状態だ。自分は前々から捕食

中の魚たちの写真を撮るのが好きだったので、皆が移動を開始してもその捕食に未練があり、目を離さずに深度を浅く取って移動をしようとした。その矢先、2匹のマンタの姿が！僕は皆から見えなくなることを承知で浮上を始め、マンタの姿を追った。またあの捕食シーンの前に出ると、3匹、4匹、5匹、6匹、7匹！マンタたちが、列をなして、魚たちの群れに向かって来ては、捕食を繰り返し始めた。

い つの間にか、遠藤さんたちも、その下で撮影を行っていた。僕は今まで撮影できなかった鬱憤を晴らすかのように、エアが切れるまで撮影を続けたのだった。この日良い写真が撮れたことは、マッサージに行くよりも、疲労回復に効果があった。

押えの撮影でマンタ7匹の捕食

RESEARCH MANTAS IN PALAU
パラオマンタリサーチ! 序章
WEB-LUE 2011. Autumn [Palau]

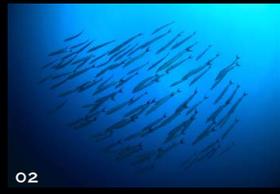


水面付近ではクマザサハナムロ、マダラタルミ、ミナミスズミが密集して、激しい捕食シーンを繰り広げていた。

RESEARCH MANTAS IN PALAU
パラオマンタリサーチ! 序章
WEB-LUE 2011. Autumn [Palau]



01



02



03



04

- 01/スタジアムのヨスジフエダイの群れ
- 02/003で見た、バラクーダの群れ
- 03/同じく003で群れていた、ウメイロモドキの群れ
- 04/ゲロンアウトサイドのホウセキキントキの群れ



サンケンブリッジを潜りながら上げ潮を待つ

記 事を読んでいると、なんだか何にも見れていないように感じてしまう人もいるかもしれないが、実際にはかなり色々なものを目撃している。今回のロケでどれだけのものが見れていたかを少し列記してみたいと思う。

009というポイントでは、ブルシャーク（この時はフィッシュアイしか持っていないで、撮影できなかった）、カムリブダイ、オオメカマス、ブラックフィンバラクーダ、マダラタルミの群れなど。ブルーホールと呼んでいる、水深50mに横穴の空いたケーブ（どちらかと言うとアーチ?）も撮影した。

ジャーマンでの捕食狙いの前に潜ったポイントのスタジアムでは、ヨスジフエダイの群れ、ゲロンアウトサイドでホウセキキントキやインドオキアジの群れ。ゲロンインサイドでは、浅瀬のサンゴを撮影。ジャーマンチャネルでは、マダラタルミ、ミナミスズミの捕食、ギンガメアジの群れ、そしてマンタの捕食。

ナビゲーターコーナー（デイドリームのアリ

ジナルポイント）では、クレバス状の面白い地形と、グレーリーフシャークの群れ。

サンケンブリッジというポイントでは、地形。そして、デイドリームが003と呼んでいるマンタポイントでは、ツムブリ、オオメカマス、ブラックフィンバラクーダ、インドオキアジ、ウメイロモドキなどの群れやシルバーチップシャーク。

遭 遇したエイの名前を揚げると、ロングテール

スティングレイ、ツカエイ、ホワイトテールウィップレイ、ポーキュパインレイ、マダラエイ、マダラトビエイそしてマンタと、オルネートイーグルレイ以外はパラオで見れるエイは全部目撃した。

外洋の移動途中には、カズハゴンドウ300匹の群れ、ハシナガイルカの群れなどなど。こうして列記すると、かなり見れている。リサーチとは言いながらも、遠藤さんがさりげなく、撮影や参加したゲストに配慮したポイント選択をしてくれている事が伺える。



05



06



07

009の水深50mのブルーホールにも潜った

05/海底にうづくまる、ポーキュパインレイ。003にて

06/ゲロンインサイドのサンゴもリサーチ
07/ホワイトテールウィップレイ

RESEARCH MANTAS IN PALAU
パラオマンタリサーチ! 序章
 WEB-LUE 2011. Autumn [Palau]

シャーマンでマンタの補食に遭遇したその翌日、この勢いに乗って、北のマンタを1と再度チャレンジしたが、結局北では、最後まで1匹もマンタを見ることができなかった。しかし、「あまり確実に見えない方が良いのかもしれないですね」と遠藤さん。この発言は当然、そういう環境を保護していくという意味が含まれている。

最 終日には、外洋、水深2000mや3000mの海域

にパラオ政府によって設置されたというパヤオ（漁業用の浮き魚礁）の下を潜るという企画にチャレンジした。シイラやバショウカジキ、外洋性のサメなどを期待したが、今回見れたのは、アミモンガラの群れ、外洋性のマツダイ、まだ小振りだが、シルキーシャークなど。素潜りでの撮

影ではあったけど、この抜けるような透明度が何とも言えず、爽快だった。

外洋のパヤオ（浮き魚礁）下に群れる魚たちを狙う

外洋性のシルキーシャークに遭遇



02



03



04



05



06

- 02/ 外洋性のアミモンガラの右魚の群れ
- 03/ 見上げると、太陽光がまぶしかった
- 04/ 外洋性のマツダイにも遭遇
- 05/ 鳥も遠くに見える
- 06/ ハシナギルカが何度もジャンプを披露してくれた



外洋でのリサーチは、日の出前からスタートした

RESEARCH MANTAS IN PALAU
パラオマンタリサーチ! 序章
 WEB-LUE 2011. Autumn [Palau]

Information Link
<http://daydream.to/palau/>

click! 関連情報HPへ

リベンジ取材予定!

「パラオマンタリサーチ序章!」と書いたからには、「本編!」に続かなくては話にならない。100%撮影ができる保証も無いのに、すでにこんな事を書くと、イッテQで、釣り上げられもしないカジキを「釣り上げてくるぞ〜!」とタレントが番宣し、有名な回転鮓屋さんが、その鮓ネタを食べられるかのような宣伝をして、結局釣り上げられないで他人が釣ったものでお茶を濁すような事になりかねない。しかし、それも実はお店の宣伝にはなっているわけだけだ。

まあ、それも有りか……。いやいや、宣言することで、逃げ道を自ら閉ざす事も時には、重要。そういう思いで、次回、2012年4月にリベンジ取材を行なうことに決定した。この取材、若干の一般ダイバー参加者の募集も行なう予定。詳しくはデイドリーム・パラオの遠藤さんまで。

しかし、リサーチ取材は、上記したようなし返屈さが伴う可能性も覚悟した上で参加してもらえればと思う。



列をなしてマンタたちが向かって来た。
まるで宇宙を飛ぶかのように…



01/ジャーマンチャンネルで補食マンタ撮影中(撮影:遠藤学)

02/次回は、この上下にもマンタが舞っている写真を期待したい



現在、パラオ屈指のリサーチ力を誇る日系ダイビングサービス。豪華ダイビングクルーズ船、龍馬を擁する。また、サイパン、グアム、そしてペリリューにも支店を持つ。マネージャーの遠藤学さん他、パラオガイド歴の長いスタッフが、ワイドからマクロまで、確実に見せてくれる的確なガイディングは、過去に蓄積された数々のリサーチデータの賜物。そのデータは、時に一発狙いの大物まで、遭遇確率を上げてくれる。

もちろん、ビギナーや体験ダイビングも大歓迎! 2010年11月に就航した新型スピードボートDayDream VIIは、全長12.7m、全幅3.3m、定員、ゲスト定員18名。トイレ、シャワー付きで、より早く、より快適にパラオでのダイビングを提供してくれる。

デイドリーム・パラオ



RESEARCH MANTAS IN PALAU
パラオマンタリサーチ! 序章
WEB-LUE 2011. Autumn [Palau]



またこの海で会おう。
今度は50匹の大群をと
心に誓って…

RESEARCH MANTAS IN PALAU
パラオマンタリサーチ! 序章
WEB-LUE 2011. Autumn [Palau]

Information Link
<http://daydream.to/palau/>

←click! 関連情報HPへ